

さ ざ ん か

第 103 号、2010 年 6 月

サッカーに大騒ぎする人間を横目に見て、ふん、馬鹿なやつらだという冷めた態度でいた人たちまで含めて、日本中がワールドカップサッカーの試合に沸いています。まあ、前回のドイツ大会とか今回も大会直前の国際親善試合での結果をみているとどうせ今回もたいしたことはないやろう、と多くの国民は思っていたのでは。

世間の目とかブームとか空気とか、風評被害とか、良い方向にしろ、悪い方向にしろ、思わぬところでとてつもないパワーを発揮するのが人間が集合した時に生じるエネルギーの特徴の一つでしょうか。民衆の力は弱いし、強い。日本国民はアホのようでありながら賢かったりする。そんな国民全体のうねりとか、パワーを生み出す（あるいは共振させる、あるいは誘導する）源泉になっているのが、メディアということだと思います。

確かに立法、行政、司法につづく第 4 の権力と言われますが、第 4 番目の権力であっても現代社会ではその影響力は実質ナンバーワンではないでしょうか。

大騒ぎ過ぎるようなスポーツ報道も含めて、どこかで間違いなくマスメディアに踊らされているというのは感じるのですが、現代ではそれもまたやむを得ないことなのでしょう。

その中で、いかに自分の目でモノをみて自分のアタマで考えるかが大切なのでしょうが、その既存のマスメディア（新聞やテレビ放送）そのものにべったりと取り込まれては批判する力も知らない間に奪われてしまいそうです。

いましばらく、インターネットの成熟を待つしかないのですが、インターネットイコール大衆そのものだと考えたとき、ある意味いいかげんでもある日本国民そのものにやや不安があるのだから、インターネットの進む方向（個人が主役）にもやや不安が残ったりもしますね。

俳句

西屋敷 喜美子

いつまでも できぬ今年の 更衣

軒下に すだれを下げて 海の宿

サングラス かけて運転 慎重に

県立北薩病院の理念

慈愛・協調・前進

県立北薩病院の基本方針

- 1 患者さんの満足、ご家族の安心を提供します
 - 2 急性期医療の実践と、より高い専門医療を追求します
 - 3 地域の医療、福祉との連携を強め、これを支援します
 - 4 仕事を通して喜びと生き甲斐を追求します
-
-

病院からのお知らせ

- * 7月から外科の医師が変わります。中島三郎部長から益満幸一郎部長へ変わります。また阿久根哲医師が退職します。
- * 7月から当院はDPC対象病院となり入院、外来のシステムが若干変わります。急性期医療を担うための病院として生き残るための当院の選択です。院内に説明書が掲示してあります。ご覧下さい。
- * 新型インフルエンザワクチンはほぼ今回は終息したようです。多分、これから先もずっとウイルスとの戦いは続きます。今回の新型インフルエンザ対策が良い教訓になればと思います。
- * 病院内では、全ての方にマスク着用をお願いしておりましたが、とりあえず4月から義務付けは解除いたしました。可能な方はマスク着用を継続下さい。
- * 骨密度、測ってみられましたか？ご希望の方はいつでもできますので、各科窓口でおたずねください。適切な治療で骨粗しょう症の進行を予防できることがあります。骨密度を上げるお薬を服用している方は、骨密度が上昇したかどうか確認してみてもいかがでしょうか。骨折予防は寝たきり予防につながります。骨年齢：あなたの骨は〇〇歳です。という表示が出ます。

- * MRI で脳の検査をしてみませんか？目的は脳卒中や認知症（ボケ）の予防につながることもあるからです。また、脳動脈瘤（くも膜下出血の原因となる）の発見にも威力を発揮します。脳ドック以外でも脳神経外科または神経内科外来にてご相談ください。無症候性の病変（症状はないけど梗塞がある）がみつかれば予防の治療を開始した方もおられます。寝たきりや認知症にならないためにも一度は検査されることをお勧めいたします。
- * MRI は腰痛の検査にも威力を発揮します（脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアなど）。あるいは肩こりや手のしびれの原因を探すのにも有用です。精密検査希望の方は神経内科外来にてご相談下さい。
- * 新式のマンモグラフィーが導入されております。乳がん検査に威力を発揮いたします。近年乳がんが増加傾向です。乳がんが気になる方は外科外来へお申し出ください。

地域医療連携室のご紹介

近年の医療を取り巻く環境の変化によって、地域の医療機関の連携と適切な役割分担がますます重要になってきています。当院では、患者さんが地域で継続した医療を、安心して受けられるような体制作りを進める目的で、地域医療連携室を設置し、医師（兼務）看護師・医療福祉相談員・事務職員で対応しています。

地域医療連携室は、より良い医療を患者さんに提供するために、地域の医療・福祉機関がそれぞれの機能や特殊性を活かして、適切な役割分担を行うための橋渡しをする所です。

患者さんやご家族が希望される退院後の療養先について、一緒に考えていきます。また、退院後、療養生活に不安のある方に対し、入院中から患者さん・ご家族と相談しながら在宅にむけて支援しています。またケアマネジャーや行政と連携しながら、退院にむけての調整を行っています。

その他には、外来患者さんの紹介・逆紹介、診療案内、市民公開講座等の講演会の企画、地域の医療従事者を対象にした研修会の企画なども行っています。

医療福祉相談室のご案内

医療福祉相談員・看護師等が、患者さんやご家族からの相談をお受けしています。

例えば・・・

- * 病気や療養上のことが心配
 - * これからのことが不安。話を聞いてもらいたい
 - * 転院先や施設について相談したい
 - * 医療費、生活費などの経済的なことが心配
 - * 退院後の生活について相談したい
 - * 保健・福祉制度に関すること
 - * がんについて相談したい
 - * 医療安全に関すること
- など。

場所 1階 総合受付横 地域医療連携室

時間 平日8：30～17：15

相談内容については、秘密を堅く守ります。お気軽にご相談下さい。

年をとるといふこと

宮園辰夫

世の中が長寿になっているので、老人になることを恐れる人がたくさんいるし、地方自治体のように老人とその生活を受け入れる側も、どう対処していいかわからない、という戸惑いがあるのかもしれない。

或る調査では、全国の痴呆老人数は高齢者の9%位とか。今はもっと増えていると思われるが、年を取ることをやみくもに恐れたり、おびえたりするだけでは駄目だ。毎日が日曜日になっても、よく体を動かし、働くことが大切。楽しい毎日を送る心がけをしよう。健康には十分心がけ、老後だってこわくないと思っていけるようにしよう。

ポックリ寺参りになんていうのもあるそうだが、お参りばかりしてはいけな。ぽっくり死ぬという、努力も必要かもしれない。それにはやっぱりよく動き、働くことが大事だ。

年を取るのステキなことだと思いたいが、本当は誰にとっても荷が重い。やがて日本は4人に1人が老人になるというが、定年や仕事が出来なくなっても、楽隠居のできるなんてとてもじゃない。年を取るにも勇気がいるし、子供達に声をかけても、年を取ると、

分からないというような顔をしてジロジロ見て通る。団塊の世代は変わりませんよと、云ってくれても、お世辞半分に聞かなくてはネ。ア一年は取りたくないもんよ、とっていつまでも若く出来ない。残年なり！（意味のない文で申し訳ない。書いた自分でもはっきりしない）

短歌

雲間より 光のカーテン 波きらら 吾子を 寿ぐ 幸せの朝

俳句

夏帯や 母の残り香 匂ひけり
雲海に 風が流れて 波をうつ

さつま狂句

呆^ぼえ教師 我が子あ塾^いい 通わせつ
会費おば 払^わらん奴^が 上座^{すわ}ぜ座つ

短歌

瀬戸好子

紫陽花の 花の萎れている午後 テレビはやっと梅雨入りつげる

読みながら いつしか瞼あわさりて われの読書はかわまわりする

生き甲斐

別府政隆

わかばの萌む季節を今年も迎えた。今日は朝から真夏を想わせる。むし暑さを感じる。妻と 2 人、車で出かけることにした。途中、知人宅を尋ねることにした。幸い、夫婦とも牛舎で作業していた。久しぶりだなあと云って、家の中へ案内され、室内のクーラーで私達は生き返った魚の如く、本当に生き返った思いをしたものだ。

お茶を飲み乍らも 4 人で話しもはずんだ。昼食後、主人の案内で彼の経営する工場を訪れることにした。驚いた事には、働く 15 名が皆 80 才を過ぎた年寄りばかりの老婆ばかりだった。しかし、昔取ったきねづかと云うか、手先はさすがに器用さがうぎょうある。語

り合い乍の作業である。従業員の全員が楽しいと云っていた。また、生き甲斐があると語ってくれた。年寄りでなければできない作業内容でもある。ラッキョウの臭いがあるからだ。

日給も若者に負けないとあって、話す顔には笑顔さえあった。考えてみれば、自分たちの周辺の老人達は暇をもてあまし、孤独な生活を余儀なくしているのである。それから自分たちでも何かよき手段はないのか必死に考えてみた。空き家を利用して先ずは 2,3 人で集いの場、語りあうことから始めてはと、日夜考えるばかりで実行には至ってないが、今後は高齢者にとって生き甲斐を見つけ出したいものです。いつか実現あるのみ。

ふらんす革命 カラーマン (とその女)

フランス革命の理念というか旗印は、自由、平等、博愛(同胞愛)である。

(な、なんで今頃フランス革命なの?)

子供手当の一律平等支給が始まった時、何で一律支給が平等なのかなあと考えた。この場合は、支給額が平等である。1億円持っていようが、毎月の収入が5万円だろうが、一律平等支給ということになった。

そもそも平等とはなにか、と思ったとき、そういえば、フランス革命は自由、平等、博愛を唱えていたなあと思いだした。学者じゃないから、詳しくは知らないが、近代市民生活の基本になったのはフランス革命の諸原理、特に自由と平等であることは確かな事のようにだ。(フランス革命とか欧米の革命はたっぷり血塗られているところが、なんか、いやだなあ。でもそれくらいの代償を払って勝ち取ったのが自由とか平等なのでしょうけどね。)

自由と平等。本来は共存可能なはずの理念が、なぜか現代ニッポンでは曲解されている。自由はわりに分かりやすい。選ぶ自由、選ばない自由。勉強する自由、勉強しない自由。結婚する自由、結婚しない自由。勿論、自由を得るためのそれなりに代償は必要だが、今回は平等について考えてみたい。

結果平等とか、機会平等とか。さすがに、もう、小学校の徒競走でみんなお手でつないで、同時にゴールイン！などと極端な結果平等を求めることはしていないであろう。(と思う)

機会平等とはいいいながら、大学入試を見ると家庭に恵まれている子供達のエリート学校への進学率が高いと言う。誰でもが大学受験を受ける機会が平等だとはいいいながら、現実

は必ずしも平等ではない。一言で言うと、貧乏人の家庭に生まれると、金持ちの家庭に生まれた場合に比べて進学できる機会（勉強させてもらえる機会）は相対的に少なく、全く持って生まれながらにして平等ではない。（進学塾にいくとか、家庭教師をつけるとかでしょうけど、本当にそうなのかなあ。塾に行ってもアホはやはりアホだと思うわ。だけど、才能があるのに、お金がなくて充分勉強できないのはかわいそうだわね。）

民間放送の花形女子アナウンサーは美形が多いのは周知の事実である。勿論、民間放送の場合である。公共放送のアナウンサーはその限りではない。多分、公共放送は容姿は採用の基準の重きをなしていない。（としか、考えられない。）

これはどちらが平等なのだろうか。持って生まれた外見をまったく無視して、たとえば、試験の成績だけで決めるとすれば、女子アナウンサーを選抜するに当たって、それは本当に平等と言えるのだろうか。あるいは、それは最良の方法なのであろうか。それは単に試験の成績を基準にしただけの偏った、不平等な評価法ではないだろうか。

アタマ悪い分、容姿でカバーすることは平等の精神に反するのだろうか。（それでも最近ではアタマも良くてカオも良い子が多いから、なんとなく不平等感をかんじたりするなあ。アタマもカオもいまいちのアタシとしてはなんか僻んじやいたくなるわねえ。まあ、そんなアタシがステキだというあなたみたいな人が居るから救われてるけどね）

そもそも結果においての平等はこの世の中にありうるのか。美人が得をする、頭が良いやつが得をする、スポーツができる人間が得をする、ことは不平等なのだろうか。

たとえば、10の能力の人間も、6の能力の人間も同じ報酬10万円を貰う事が結果的に平等なのだろうか。あるいは、それぞれ10万円、6万円貰うことが平等なのだろうか。

平等とは何かと考え込むと難しいが単純に考えれば、本来の人間はみな生まれながらにして平等である、というのはあくまで法の上で平等である、ということだろう。それは、たしかにそうなのだ。ブスも美人も、美男もブオトコも、天才もアホも、法の前では平等でありうる。男と女も、金持ちも貧乏人も、オカマもレズビアンも、性格が明るかろうが、暗かろうが、足が太かろうが細かろうが、巨乳だろうが貧乳だろうが、サッカーファンだろうが、野球ファンだろうが、みんな法の前では平等なのである。

（な、なんかどさくさにまぎれてセクハラっぽい発言が多いわね。気をつけなさいよ、迂闊な言葉はいつか命取りになるわよ！）

ちょっと可愛いからといって、交通違反が許されるわけではない。法の前では平等なのである。総理大臣でも基本的には、交通違反をすれば罰せられる、はずだ。

（あら、でも若い男の警察官は可愛い女の子だったら見逃してくれるっていわない？） そ

んな俗説は俗物ゆえの妄想だわさ。バカ女め。

そう考えると、子供手当では法の前で子供は平等に支給を受ける権利があることになりそれには異論がない。あんたのところの子供は性格が悪いから子供手当では支給しない、などということは許されないことだ。問題は、なぜ一律現金で2万6千円（今年は半額）かと云うことだろう。

支給を受ける権利としては平等であるが、支給額が平等である必要はないであろう。お金が余って使いように困っているような政府が配ってくれるのであれば当然、問題はないが、将来的に国が潰れるかもしれない、そうなると国民は年金ももらえないかもしれないという寂しいふところ事情の国家財政の中での数兆円（2～4兆円）の一律の現金給付は狂気とすらいえるだろう。ここでの一律給付は平等だろうか。

一億総中流というのと一億総平等とは別のものである。一億総中流はある面で望ましいが、一億総平等はおぞましい。

平等であることと公正であることが共存しなければならないのであろうが、現実的にはそれはとても難しいことだと考えられる。自由と平等は背中合わせでもあるのだ。自由が先行すると平等が遅れてしまうことが多い。いまだに我がニッポンにおいてはふらんす革命の精神は異質である。

編集後記

入梅が遅かった分、梅雨になったとたんにドカンと大雨になりました。まったく、自然は気まぐれですね。ほどほどの分量で程ほどの期間降ってくれば良いものを。

もう今年も半年が終わろうとしています。本当に時の流れの早さを実感するのですが、これは多分現代人ゆえの宿命なのかもしれません。テレビも新聞も娯楽もない大昔は、今のように時間の流れの早さを感じることはなかったのかもしれません。メディアが発達する前の時代では、1日1日は意外と長かったのではないのでしょうか。(KT)